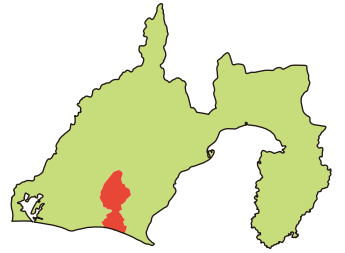


① 彌生の出身地はどこでしょう？

A. 静岡県掛川市

静岡県掛川市の掛川駅から、南に9キロほどのところにある土方という地域です。…ちなみにBの東京都世田谷区は彌生が晩年過ごした家があった場所（羽根木）で、Cの佐賀県唐津市は彌生の夫 荒太の出身地です。



② 彌生が幼少期を過ごした家はたいつ頃に建てられたでしょう？

B. 江戸時代末期

幼少期を過ごした家は、彌生が生まれる少し前の江戸時代末期に建てられました。現在、その家は掛川市吉岡彌生記念館に移築されています。  
※彌生は、旧暦の明治4（1871）年3月10日生まれです。

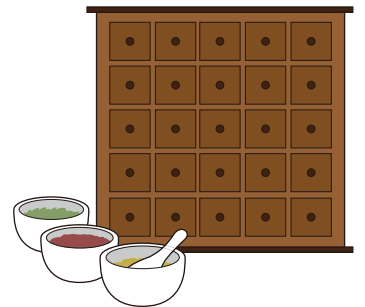


掛川市吉岡彌生記念館に移築された生家  
市指定文化財

③ 彌生の父 養斎の職業は何でしょう？

B. 医者

養斎は、当時村では珍しかった西洋医学も取り入れていた漢方医でした。人気があり、城東郡切っの流行医の一人と言われていました。  
※城東郡とは、現在の静岡県菊川市、御前崎市の大部分、掛川・島田・袋井市の一部の地域のこと。



④ 彌生は何人兄弟だったでしょう？

C. 10人

異母兄弟の姉1人と兄2人、彌生の下には6人の妹がいました。



⑤ 彌生が医師になったのは何歳のときでしょう？

A. 21歳

当時医師になるためには、前期医術開業試験と後期医術開業試験の二つの試験に合格しなくてはいけませんでした。彌生は19歳で前期を、21歳で後期に合格し、日本で27番目の女性医師となりました。



⑥ 彌生の結婚する前の名字は何でしょう？

C. 鷺山

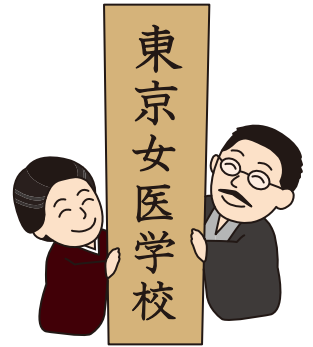
吉岡荒太と結婚し、吉岡彌生となったのですが、父 養斎が彌生を吉岡の家にあげるのを惜しく考え、むしろ逆に荒太を養子に迎えたいぐらいに考えていたようで、なかなか認めてもらえず、結婚後もしばらくは鷺山彌生として生活していました。



⑦ 彌生は29歳のときに何をしましたでしょうか？

A. 学校をつくった

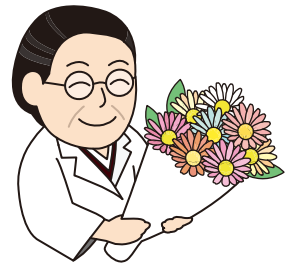
1900（明治33）年29歳の彌生は、夫の荒太とともに女性のための医学校、東京女医学校を開校しました。その年は、女子英学塾（津田塾大学）や女子美術学校（女子美術大学）、翌年には日本女子大学校（日本女子大学）など女性のための学校が相次いで誕生した時代でもありました。



⑧ 彌生が医師を引退したのは何歳のときでしょうか？

C. 68歳

彌生は、60歳を過ぎても手術をしない日はなかったというほど、忙しい毎日を過ごしていましたが、体力の限界を感じて68歳のときに48年にわたる医師生活を欧米視察を機に引退しました。その後はより一層、女性医師の養成と女性教育に身を捧げていきました。



⑨ 彌生が創立した学校は現在の何大学でしょうか？

C. 東京女子医科大学

東京女医学校、東京女子医学専門学校を経て、東京女子医科大学となりました。



東京女子医科大学にある  
吉岡荒太レリーフ（左）と吉岡彌生銅像（右）

⑩ 彌生が大切にしていた言葉は何でしょうか？

B. 至誠

至誠とは、きわめて誠実なこと。まごころという意味です。彌生は生涯を通じて、至誠を心がけ、医師にとって至誠の精神がとても大切であることを教え子たちに伝えていました。



## 何問正解しましたか？ 8問以上で合格です ✿

- |      |    |           |                                 |
|------|----|-----------|---------------------------------|
| 全問   | …… | 吉岡彌生 超上級者 | } とてもよく知っていますね！<br>吉岡彌生のスペシャリスト |
| 9・8問 | …… | 吉岡彌生 上級者  |                                 |
| 7・6問 | …… | 吉岡彌生 中級者  | あと少し！もっと知識を増やそう！                |
| 5問以下 | …… | 吉岡彌生 初級者  | 勉強して、もう一度挑戦してみよう！               |